

2006年度秋学期 アンケート報告

学生による授業評価

FD部門・授業評価部門委員 黒田 一充

1. 実施状況

2006年度秋学期も、学生による授業評価を2006年11月24日（金）から12月7日（木）の日程でおこなった。対象は、専任教育職員と非常勤講師が担当するデイトタイムコース及びフレックスコースの平成18年度秋学期開講の講義科目（教養科目・保健体育科目・専門教育科目）、外国語科目（日本語を含む）及び体育実技科目で、複数担任科目（オムニバス・リレー授業）は除いている。調査方法はアンケート用紙を配布し、記入後すぐに回収をおこなった。

表1が実施状況の結果で、調査クラスの割合を示す「実施率」は89.8%であった。前回の春学期、前々回

の昨年秋学期に比べて若干減っている。表2は学部別の実施率と回答率で、回答率は、アンケートの回答数を各科目の登録人数で割った数字である。図1の実施率と回答率の変化のグラフを見てわかるように、実施率は今回やや下がったものの、ほぼ横ばいの傾向を示しているのに対し、回答率は春学期に比べて秋学期は落ち込む傾向が見られる。これは春学期に比べて、秋学期は履修登録したが、春学期で単位を修得したために受講しなかった学生が多いことや、授業を欠席する学生が多くなっていることによると思われる。そのため、春学期だけの変化、秋学期だけの変化を見ると、どちらもほぼ横ばいの状況である。

表1：アンケート実施状況

2006年度 秋学期・後期 開講科目	対 象	科目(クラス)数	1,641	1,580	139	3,360
		学生数	199,355	52,303	5,263	256,921
	実 施	科目(クラス)数	1,352	1,530	136	3,018
		回答者数	62,703	39,241	3,558	105,502
	実 施 率		82.4%	96.8%	97.8%	89.8%
	2006年春学期比		-3.7%	-1.1%	0.2%	-2.1%
	2005年秋学期比		-2.1%	-0.8%	0.6%	-1.3%
	回 答 率		31.5%	75.0%	67.6%	41.1%
	2006年春学期比		-6.8%	-7.5%	-2.7%	-6.3%
	2005年秋学期比		0.0%	-1.3%	-1.7%	-0.1%

注)「学生数」「回答者数」は延べ人数。通年科目も含む。

表2：学部別アンケート実施率・回答率

	デイ法	デイ文	デイ経	デイ商	デイ社	工	総情	フレ全	保健体育	計
実 施 率	89.3%	87.8%	93.8%	94.3%	96.0%	90.3%	82.7%	83.4%	96.6%	89.8%
2006年春学期比	-1.1%	-5.3%	+0.3%	-0.8%	+3.1%	-3.1%	-3.5%	-4.5%	+3.5%	-2.1%
2005年秋学期比	+1.4%	-5.5%	-1.9%	+0.3%	+0.3%	+0.6%	-2.7%	-1.8%	+0.3%	-1.3%
回 答 率	35.3%	48.5%	40.9%	37.3%	39.6%	41.0%	41.8%	39.1%	65.6%	41.1%
2006年春学期比	-6.1%	-7.1%	-5.0%	-6.2%	-4.2%	-10.6%	-2.7%	-5.1%	-2.4%	-6.3%
2005年秋学期比	+1.7%	-1.6%	+1.6%	+0.9%	-1.4%	-0.9%	-0.5%	-2.3%	-1.4%	-0.1%

注)「デイ」はデイ・コース、「フレ全」は全学年のフレックス・コース及び第2部を意味する。

2. 全体的傾向

このように、全学の3,360クラス、延べ256,921名を対象にしたアンケートの結果が得られた。共通質問項

目数は12で、「⑤強くそう思う、④そう思う、③どちらとも言えない、②そう思わない、①全くそう思わない」の5つの段階で評価する。質問ごとにその項目に

属する全クラスの個々の評定平均値を、A (4.1～5.0)、B (3.1～4.0)、C (2.1～3.0)、D (1.0～2.0) の4段階に分類した。前回までのアンケート報告は8つの段階に分けていたが、今回は統計の分析よりもわかりやすさを優先した。つまり、評価の標準値 (3.0) より高いほうがA・B、低いほうがC・Dである。

図2は、質問項目ごとに、クラスの評価平均値の分布 (割合) を示したものである。評価平均値の評価の高い項目が上に、評価の低い項目が下へくるように質問項目を並び替えている。これをもとにして、アンケート結果を見ていきたい。一番上位になったのは、前回・前々回と同じ「出席 (10)」である。約92%がAの評価であり、このアンケートの回答者の大部分がよく出席をしている学生であることがわかる。

「声 (3)」は、授業でもっとも重要な要素である教員の声がよく聞こえるかどうかであるが、B以上の評価が約98%で前回、前々回の調査と変わらず高い評価を得ている。次の「要項 (1)」は、Aの評価が約71%あり、前回、前々回の評価より上がっている。「熱意 (4)」については、Aが約64%あったが、Cの評価を出した学生も約1.1%見られる。

「学生からの質問 (7)」はAが約58%、Bが約41%、「工夫 (2)」はAが約56%、Bが約41%で、この2つの質問の評価はほぼ同じような結果が出ており、学生に理解できていないところを質問させて再度その点を教員が説明するなどの工夫が必要かと思われる。「教室の広さ (12)」は、Aが約54%で前回までとほぼ変わらない。

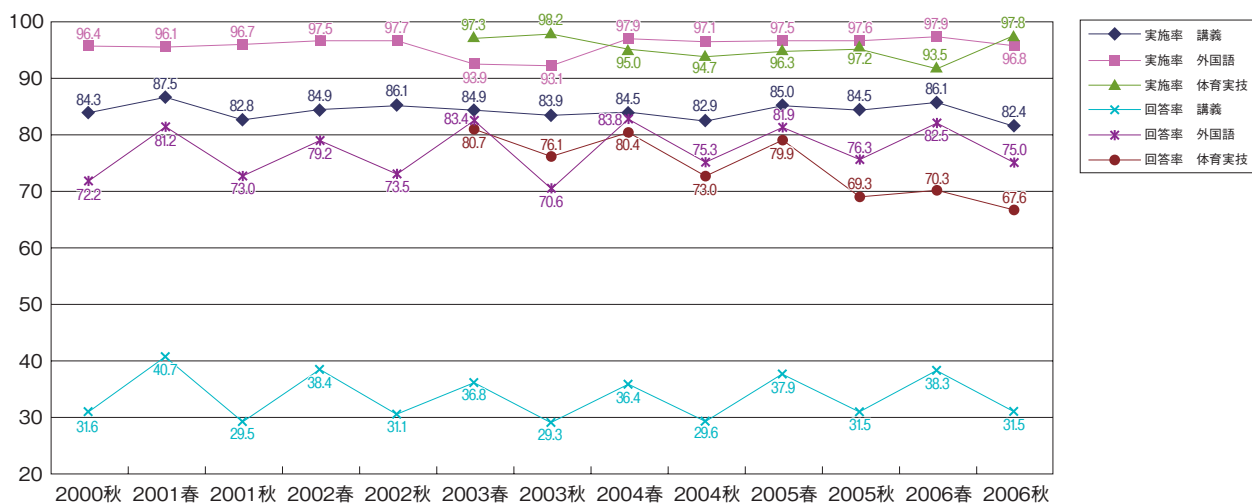


図1: 授業評価アンケート実施率・回収率の変化

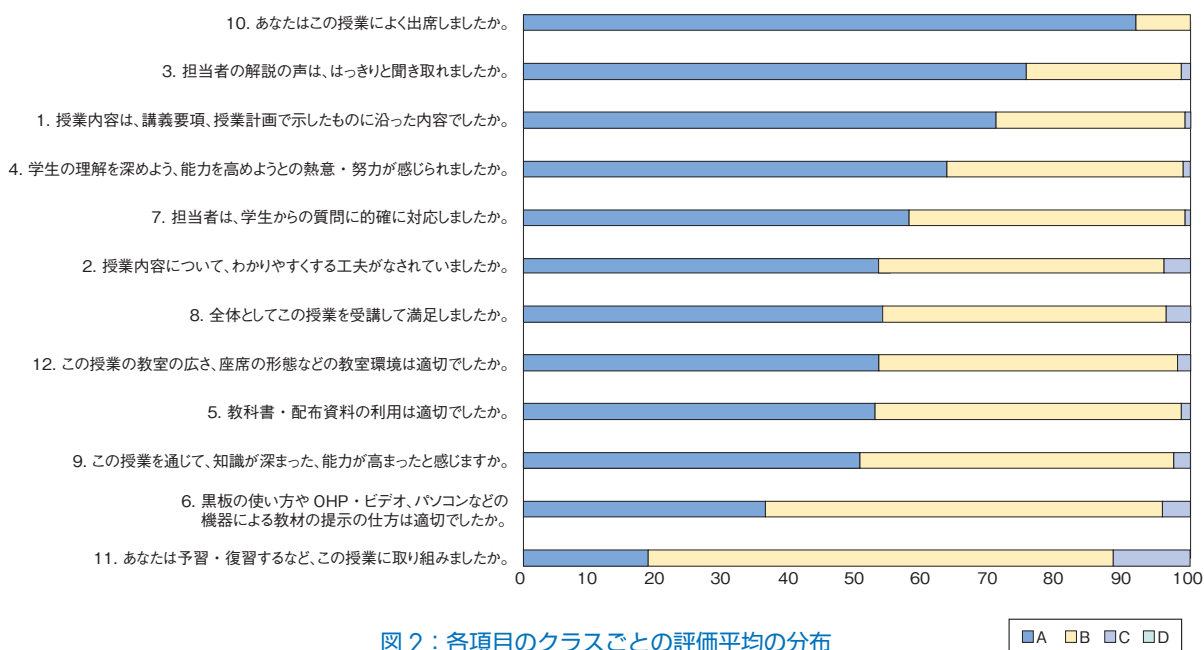


図2: 各項目のクラスごとの評価平均の分布

表3：(8) 授業の満足度に対する学年別の評価分布

評価	法学部				文学部				経済学部			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	23.5%	30.0%	29.1%	36.0%	24.5%	27.4%	31.3%	39.1%	21.9%	23.9%	23.1%	35.3%
4	40.8%	41.8%	43.7%	44.0%	39.7%	43.3%	45.1%	40.7%	36.0%	39.1%	42.6%	39.8%
3	24.4%	21.2%	20.0%	15.9%	26.2%	21.8%	17.4%	15.2%	27.5%	22.2%	24.0%	16.1%
2	7.5%	5.0%	5.2%	3.0%	7.5%	5.6%	4.8%	3.8%	8.2%	8.9%	6.4%	5.1%
1	3.8%	2.0%	2.0%	1.1%	2.1%	1.9%	1.4%	1.2%	6.4%	5.9%	3.9%	3.7%

評価	商学部				社会学部				工学部			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	20.9%	33.0%	30.0%	39.1%	18.2%	29.1%	31.1%	40.9%	18.8%	15.4%	20.3%	27.9%
4	33.7%	44.4%	43.2%	38.1%	39.0%	44.7%	44.4%	41.2%	41.1%	39.4%	39.6%	42.8%
3	29.1%	16.3%	19.8%	17.0%	28.3%	19.4%	18.8%	14.3%	29.6%	31.9%	31.3%	23.7%
2	10.8%	4.7%	4.5%	4.2%	10.3%	5.3%	4.5%	2.7%	6.7%	8.5%	6.6%	4.5%
1	5.5%	1.6%	2.5%	1.6%	4.2%	1.5%	1.2%	0.9%	3.8%	4.8%	2.2%	1.1%

評価	総合情報学部				外国語				体育実技			
	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上	1年	2年	3年	4年以上
5	25.2%	29.6%	30.0%	38.7%	27.9%	29.9%	32.5%	38.0%	48.1%	60.3%	38.9%	50.9%
4	36.8%	38.5%	42.3%	40.9%	41.5%	41.2%	41.7%	40.5%	35.8%	30.2%	33.3%	38.1%
3	27.2%	23.8%	19.6%	14.5%	21.9%	21.0%	18.9%	15.4%	13.7%	7.8%	25.9%	11.0%
2	7.3%	6.0%	6.1%	4.4%	5.8%	5.4%	4.4%	3.7%	1.7%	1.5%	1.9%	0.0%
1	3.5%	2.1%	2.0%	1.5%	2.9%	2.5%	2.5%	2.4%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%

「教科書・配布物 (5)」はAが約54%だが、前回の50%を割る評価から良くなっており、教員の改善の結果が見られた。しかし、黒板の使い方やパワーポイントなどによる「教材提示 (6)」についての質問は、Aが約34%、Bが約60%で今回もあまり変わらず、評価が低いままである。高校での授業とは異なる大教室での授業のため、教員が板書をそれほど詳しく書けないことに対する低い評価なのか、単にパワーポイントを使って映像や板書事項を映す授業が一方的だと感じられたのが評価に表われたのかは、このアンケート調査の結果だけではわからないが、評価が低くなっている理由をさらに調べる必要があるのかもしれない。

最も学生の評価が低かったのは、自己評価の「取り組み (11)」であり、Aが約18%、Bでも約70%であった。「出席 (10)」の出席率の高さに対してかなり落ち込んでおり、この傾向は前回、前々回に続いて今回も見られる。一方的な授業ではなく、参考文献を紹介したり、課題を与えることなど自主的な学習を促す工夫が必要であろう。

3. 学年別の授業満足度

今回のアンケート分析では、前回までと異なって、「(8) この授業を受講して満足しましたか」と「(9) 授業を通じて、知識が深まった、能力が高まったと感じますか」の質問に対する各学部の学年別のデータを出してみた。この2つの質問に対しての評価平均値は、「満足 (8)」がAで約55%、「知識深化 (9)」がAで約50%と前回の春学期調査より、どちらも高くなっている。しかし、前々回の昨年秋学期の調査と比較す

ると、「満足 (8)」は変わらず、「知識深化 (9)」はやや高くなっていることから、この変化は春学期と秋学期の違いによるものかもしれない。

表3は、「満足 (8)」の質問に対する5段階評価の回答の割合を、それぞれ学部・学年別にまとめたものである。講義には、保健体育講義科目を含み、外国語と体育実技については学部別の差がほとんど見られないため、学年別だけを示している。4年以上には、上位学年と大学院生、科目履修生などの回答が含まれる。

1・2年生は、教養科目の授業が多く、3年生以上は専門科目や免許・資格関連の科目が多いと思われるが、今回の調査ではそれらの科目によって区別をしたデータが出されていないため、この結果はあくまで学年別の全体的な傾向を示すものである。

どの学部・学年とも共通して、④の評価をした学生の割合が高いが、②と①の悪い評価をした学生は、どの学部も1・2年生で多く、上位学年にいくほど少なくなる傾向が見られる。しかし、一部の学部では、1年生より2年生のほうが多くなっている。

また、ここに表はあげていないが、「知識深化 (9)」の評価の分布表も作成した。それを「満足 (8)」の表と比較すると、⑤の評価の一部が④の評価に下がり、③以下の数字はほとんど変わらないという結果が出ており、この2つの質問についてはほぼ同じ評価を学生が出していることがわかる。学年によって授業の満足度や知識が深まったと感じる割合が異なることは、教員側が受講する学生の学年に応じて授業内容や説明方法を変える必要があることを示している。

(文学部教授)